

雨よけ・抑制きゅうり今後の栽培管理

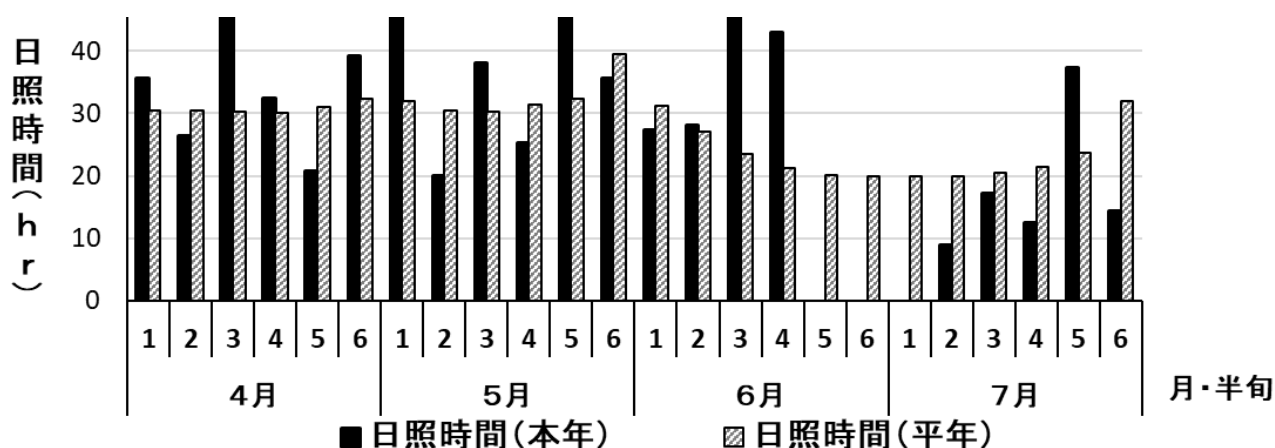
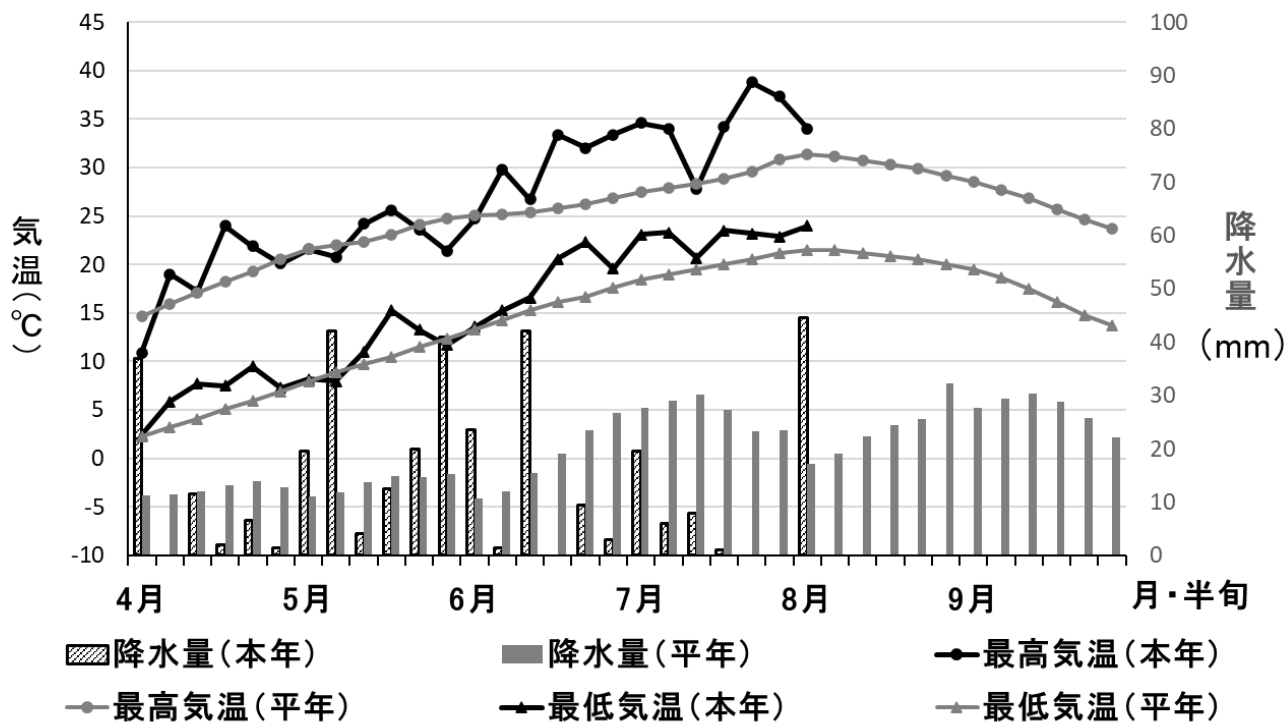
令和7年8月 日

JAふくしま未来伊達地区本部／伊達農業普及所

1 気象経過と今後の見通し

梅雨入り 6/14 頃 (平年 6/12 頃)
梅雨明け 7/18 頃 (平年 7/24 頃)

(1) 気温(最高・最低)及び降水量、日照時間(観測地点:アメダス梁川)



(2) 1か月予報 ※仙台管区气象台 令和7年8月7日発表

予報期間	8月9日～9月8日
平均気温	高い見込み
降水量	少ない見込み
日照時間	多い見込み

- ・暖かい空気に覆われやすい
- ・期間の前半は気温がかなり高くなる可能性がある
- ・太平洋高気圧に覆われやすい
- ・向こう1か月の降水量は少ない見込み

(3)3か月予報 ※仙台管区气象台 令和7年7月22日発表

9月	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
10月	天気は数日の周期で変わるでしょう。

これからの管理のポイント

- 1 草勢維持 ～力のある質の良い枝を伸ばす～
 - 強い芯を確保しつつ、『摘葉』を中心としてアーチ内に光を通す。
 - かん注や少量多回数の追肥を行い、発根促進資材を積極的に活用する。
- 2 病虫害防除 ～早期防除を徹底する～
 - べと病、炭疽病、つる枯病、褐斑病、うどんこ病、ハダニ類等に注意。
- 3 果焼け対策 ～少しずつ湿度を下げる換気を心がける～
 - 夜間が冷え込むようになったら、翌朝の換気に注意する。

2 草勢維持

(1) 整枝・摘葉・摘果

【雨よけ】

高温と成り込みにより草勢が低下（流れ果、花が小さい、芯が弱いなど）しています。アーチ天井部の整理、摘葉を積極的行いましょう。

整枝	・たれ下がっている下枝は切り戻す。 ・上段で混んでいる部分は、光が入るように誘引・摘葉する。 ・草勢が弱い、着果数が多い場合は見合わせ、草勢回復後に整枝する。
摘葉	・過繁茂にならないように、積極的な摘葉を行う。 特に上段。 ※アーチの内側に光が入るようにすることが大切。内側を整理する！
摘果	・果形不良果は小さいうちに摘果して株の負担を軽くする。

【抑制】

根張りが悪く、地上部の生育が先行している状態です。梅雨明け後の酷暑で芯焼け・葉焼けが発生しています。花・実をつけさせるための整枝が重要です。

整枝	・定植後芯焼けが発生した場合は、下段からの側枝発生が多くなるので、混まないように枝を配置する。 ・強い芯を2～3本残しながら、段階的に側枝の摘芯を行う。一斉止めは、草勢の低下を招くので行わない。 《下段》子づるは、1節止めを基本とする。孫づるも1節止めとし、果実収穫後は切り戻す。 《中段》子づるは、1節止めを基本とする。ネットに誘引可能な枝や節間が短い枝は2～3節止めでもよい。
----	---

	<p>《上段》 1 節止めを基本に、小さいうちにこまめに摘芯する。繁茂しやすいので、中下段よりも優先して管理するよう心がける。</p> <p>・ 今後は、根張り不良や気温の低下等により、側枝が発生しにくくなるので、良い芯は摘芯を控えて半放任にしていく。</p>
摘葉	<p>・ 主枝の収穫が終了した節の葉は摘葉する。</p> <p>・ 病気の葉、黄化した葉、新しい芯や葉に日陰を作っている葉やアーチの内側で作業の邪魔になる葉は取り除き、光が入るようにする。</p> <p>・ 気温が低下し生育が緩慢になったら、葉かきをしすぎないようにする。</p>
摘果	<p>・ 【芯焼けした場合】主枝の連続着果は草勢の低下を招くので、通常よりも間引き摘果して着果負担を軽減する。</p> <p>・ 果形不良果は、できるだけ小さいうちに摘果する。</p>

(2) 追肥 ～気温の低下に伴い液肥中心で～

根張り促進・草勢回復のために、根の近くに肥料・水分だけでなく空気も送り込めるかん注を活用しましょう。

また、追肥を行った時は『追肥した場所での反応があるか』を確認しましょう。反応のある場所へ追肥をすることで、無駄な施用を減らすことができます。

◆ 基本の追肥（液肥） ◆

【雨よけ】窒素成分 0.5～1.0 kg/10a、3～5 日間隔を目安。

【抑 制】収穫する果実の開花頃から追肥を開始する。

1 回あたり窒素成分 0.5 kg/10a を目安。前作の残肥を考慮して、芯の強さ、太さ、葉色、花の大きさ、果形等を総合的に判断して行う。

◆ 発根促進と草勢回復させたい時 ◆

アミノキッポ 5 kg/10a (300 倍) + 新チャンス液 5 kg/10a (300 倍)
またはステップV 5 kg/10a (300 倍) をかん注する。

抑制で光合成促進も狙いたい時は、アミノキッポ 300 倍 + グリーンセーフプラス 1,500～2,000 倍をかん水施用する。

◆ 高温後、流れ果や落下傘葉が発生し、草勢回復させたい時 ◆

アミノメリット青 500 倍 + カルタス 1,000 倍の葉面散布。

(3) かん水 ～マルチ内（ベッド内）が乾燥している傾向あり～

- マルチ内の土壌水分を確認しながら、短時間で回数を多く、こまめなかん水管理を行う。※午前中に行い、夜間のハウス内湿度に注意する。
- 抑制は、根張りが悪い傾向が見られるので、側枝が伸長してきてからも株元かん水を心がける。また、積極的にベッド肩や通路にもかん水や施肥を行う。

3 9月中旬以降（夜間の気温低下後）の管理

(1) 温度管理 ～夜間の気温が15℃以下に下がる時は、ハウスサイドを閉める～

- ハウス内の夜間最低気温 12～15℃を確保する。夕方、ハウス内温度が 16～18℃程度になったらハウスサイドを閉める。

※完全に閉めると病気が発生しやすくなるので、妻面は開けておく。

- 日中は 25～30℃を目安に換気を行う。

(2) 果やけ対策

夜間気温が低下し、翌朝晴天によりハウス内気温が上昇すると果実に結露が生じる。この時、急な換気により湿度を低下させると、果実の表皮にひび割れたような症状が発生する。曇雨天後の晴天日も発生しやすい。→急激な換気を避け、徐々に湿度を逃がす。

露地きゅうり今後の栽培管理

これからの管理のポイント

- 1 草勢維持 ～摘葉中心でアーチの中に光を通す～
 - 最低気温 18℃以上（概ね 9 月上旬まで）あれば、草勢は回復できる！
 - 窒素と加里の追肥、かん水を積極的に行う。
- 2 病虫害防除 ～早期防除・降雨前予防散布を徹底する～
 - べと病、炭疽病、つる枯病、ハダニ類等に注意。
- 3 台風・秋雨対策 ～排水対策を徹底する～
 - 排水対策を徹底し、枝や芯もしっかりとテープ止めしておく。

1 草勢維持

(1) 摘葉

主枝の葉、病気の葉、アーチ天井をふさぐ葉（芯）、アーチ内側の葉、新しい葉（芯）を陰にする葉などの摘葉を中心に作業を行う。※芯は残すように心がける。

(2) 追肥

摘葉後は草勢が低下するので、かん注や追肥を行い、枝の発生を促す。8月中旬以降は気温が低下してくるので液肥を中心に使用する。

【液肥使用の場合】窒素成分で0.5～1.0kg/10aを3～5日間隔を目安に施用。

【葉面散布の場合】

- 光合成促進と草勢回復：アミノメリット青500倍＋グリーンセーフプラス1,000倍
- 光合成促進と果形回復：ホップアップ300倍＋グリーンセーフプラス1,000倍
- 葉の色を濃くしたい時：アミノメリット黄 500 倍＋鉄力あくあ F14 5,000 倍
※鉄力あくあF14は、2週間以上間隔をあけて散布。

(3) 発根促進

①かん注

根の近くに肥料・水分だけでなく空気も送り込まれるので、発根が促進され草勢回復効果が高い（ただし、圧力が高すぎると根を切るので注意）。

アミノキッポ 5kg/10a(300倍) + 新チャンス液 5kg/10a(300倍)
またはステップV 5kg/10a(300倍)

②酸素供給剤の施用（秋雨や台風など過湿状態で根が弱っている時に施用）

ネハリエース 20kg/10a を通路に散布。

M・O・X 100 倍以上に希釈。1,000 倍以上/10a をベッド又は通路にかん水。

2 台風・秋雨対策

- ①排水対策（明きょを掘る、通路に溝を切るなど）をしておく。
- ②アーチの肩近くの枝のテープ止めをしっかりとしておく。
- ③台風通過後は殺菌剤の散布を行う。

3 病虫害防除

病害はウイルス病の発生が多く、べと病、炭疽病、つる枯病が見られていますが、例年に比べると発生は少ない状態です。虫害は、ハダニ類、アザミウマ類、カメムシ類、ウリノメイガが見られています。秋雨期には、炭疽病、つる枯病の発生拡大が懸念されるので防除を徹底しましょう。また、たれ下がって地面についている枝は、病虫害の発生を助長するので取り除いてください。

- 炭疽病：排水を徹底し、ほ場内に多湿条件を作らない。

発生した場合は、薬剤散布より優先して、すぐに摘葉を徹底して病斑をほ場外に持ち出す。

発生時は降雨前の薬剤散布を徹底するとともに、葉面皮膜剤（プロテックα）を活用する。

- つる枯病：株元の通風を良くする。

排水を徹底し、ほ場内に多湿条件を作らない。

薬剤散布は株元への散布と降雨前散布による予防散布を徹底するとともに、トップジンMペーストを発生前に塗布する。

（農薬名は2025年8月6日現在の登録内容に基づいて記載）

- べと病：薬剤散布は葉裏にしっかり農薬がかかるように散布する。

草勢を回復させるかん注や、液肥による追肥を行う。

- 適宜、休憩と水分補給をして、熱中症対策をしましょう。

- 農作業事故にも注意してください。

- 農薬は、最新の農薬登録情報を確認して使用しましょう。

『守ろう 農薬ラベル、確かめよう 周囲の状況』

6月10日～9月10日は農薬危害防止運動期間です！

- 混合剤の総使用回数に注意し、補助簿を活用しましょう。

- 地域計画の実践や農地中間管理事業の活用により、地域農業を守りましょう。

- 収入保険制度・農業共済制度等を活用し、経営の安定を図りましょう。

